

概要

★活動内容

吊橋監視カメラ設置と一ヶ月後のデータ回収、次回吊橋候補地視察、
5月3日、メナンゴール川、ルサン川の一号橋、二号橋に監視カメラ設置。バトゥ・プティ訪問。
5月4日、吊橋設置候補地タカラ川、コヤ川、視察
6月2日、監視カメラデータ収集

★データ結果

一号橋ではカニクイザル、ブタオザル、テングザルの吊橋利用は確認されたがオランウータンの姿はなし。二号橋、新型カメラはバッテリー充電不足のため機能せず。データなし。

★監視カメラ詳細

昨年カニクイザルに破壊された監視カメラを修理改良してメナンゴール川の一号橋に設置、完全防水の新型をルサン川に設置した。一ヶ月後、改良型は多少容器内部の湿潤はあったものの良好に機能し、橋に現れたカニクイザル、ブタオザル、テングザルの撮影に成功した。オランウータンの姿はなかった。新型のほうは内部への水の侵入の痕跡は一切なく、完全に思われたが、システム機能不全のためデータなし。バッテリーの充電が原因と推定されている。6月2日回収時に検査したところ十分に充電されたバッテリーで機能したため、6月3日に再度設置された(6月8日現在、専門家と連絡不通のため再設置は未確認)。

★吊橋状況

今回の作業で明らかになったのは一号橋二号橋のメンテナンスがおよそ半年以内に必要とされることである。木の成長に合わせた固定部分の調整。一号橋については、支えとなっている木にシロアリが侵食し始めているため害虫駆除などの処置が早急に必要とのこと。しかし、保護区内であるためシロアリ駆除などの実施には野生生物局の許可が必要となる。また、二号橋では橋体自体が重たいため、固定を増やすこと、或いは、一部解体して全体の重さを軽減することなどが専門家や地元 NGO 代表により提言されている。半年以内という期限も専門家、NGO の提言による。

★次回事業候補地

今回の吊橋事業の候補地は、現地在住専門家の意見を総合し、坪内俊憲理事長とも協議の結果、コヤ川、タカラ川となった。

★活動日誌

昨年設置直後わずか数日でブタオザル、もしくはカニクイザルにぶっ壊された監視カメラですが、この度小川夫妻の努力により、改良モデルと新型のボックスでよみがえりました。今回、その監視カメラを取り付けるべく現地に向かいました。

5月1日

BCT ジャパン・ダガッド村ツアーの後参加者の皆さんとスカウ村に向かいました。スカウでは BCT プロジェクト地の視察を行いました。小さなボートでメナンゴール川の一号橋につくと一艘のボートがすでに来ていて岸につけ、橋に集まるカニクイザルなどの観察をしていました。乗っていたのは観光客の白人と、ときどき見かける

現地ガイド。声をかけて話をすると、そのガイドが例の目撃者、ロープを伝って川を横断したオランウータンの証拠写真を撮った本人、オスマンと知らされていた人物と分かりました。名前はオスマン・アジルン氏、オスマンよりもアッジという通称でこのスカウ近辺では通っています。サンダカンをベースにフリーランスでツアーを組んでサバの自然を観光客に紹介しています。更に話をしていると、彼はこの消防ホースの吊橋、一号橋でもオランウータンが渡っているのを目撃したことがあるとか。しかも二回も。詳しい報告は別にまとめますが、私はその時点で二台持ってきた監視カメラのうち一台はこの橋につけるべきと判断しました。また、今後の橋の構造も、これまでのような複雑なものではなく、単純な作りでよいことを再認識しました。

5月2日

ツアーの皆さんとはお別れし、私はいつもベースにしているスカウ B&B へ移動。12時にジャミールとボートでダナウ・ギランへ向かいました。次の吊橋の設置場所を視察するためです。途中バタンガンとよばれる地域で森を分断して作られた排水路を視察しました。ここも候補地の一つとして現地 NGO、KOCP、のレポートには記載されています。15:40、吊橋プロジェクトの推進者でもあるバヌア博士がベースにしているリサーチセンターにつきました。ここでセンターの助手や研究に来ているイギリスの学生などと情報交換をし、吊橋候補地に案内してもらいました。

タカラ川を視察し、当初支える木がないといわれていた場所でしたが、ジャミールの見立てでは何箇所か木を利用できる場所があるとのこと。

この日は時間が遅くなったため、次回泊りがけで視察に来ることも議論しつつ、スカウへもどりました。

5月3日

朝からジャミールと監視カメラの取り付け作業に向かいました。メナンゴール川の一号橋とルサン川の二号橋での作業は午前中で終わり。鎖を使っての盗難防止やストラップでの固定補強はのちに彼が行うということで解散。私は午後からザイナル氏の提言でバトゥ・プティ村のコミュニティの方にお話をうかがいに行くことになりました。そして急きょダナウ・ギランリサーチセンターに一泊して候補地の視察をすることが決定。ジャミールも翌日リサーチセンターに来ることになりました。ザイナル氏は西マレーシア出身の方ですが十数年前にサバに移ってこられて、それからずっとポジションを変えながらも自然保護の活動に従事しておられます。キナバタンガン川下流域で熱帯雨林保全や動物保護に関心を持って来られる方にはよいアドバイザーです。私も6年前に初めてここへ来た時からときどきお世話になっています。現在はリサーチセンターでマネージャーのような仕事をおられます。

バトゥ・プティの集会所に就いたのは16時過ぎ。MESCOT というコミュニティベースの NGO の代表、ロスリーさんをはじめ他4名の地域の方々にお会いしました。彼らもオランウータンの吊橋プロジェクトには興味を持っていて、是非この地域でも行いたいとのこと。JICA の招へいなどで日本へ来たこともあり、事業のパートナーとしては十分な能力を持っている方々であるという印象を受けました。その後リサーチセンターへ移動。

5月4日

リサーチセンターにジャミールが到着したのは朝の10:30頃。ジャミールの助手、ヘル、イギリス人大学生ジェニーとともにコヤ川、タカラ川、排水溝などを視察、午前と午後に分けての活動で川幅などの測量を行いました。18:30頃センターに戻り、ジャミール、ヘルとともにセンターに宿泊し、翌日スカウにかえってきました。

私は5月15日にいったん帰国。

6月2日

5月26日からサラヤ業務でサバ州へ。業務終了後、スカウに戻りジャミールと監視カメラの回収とデータチェックを行い、6月3日にコタキナバルに戻り、4日の便で帰国しました。6月3日にはジャミールが2つのカメラを橋に再設置する予定です。(6月8日現在連絡不通のため未確認)